



ADVANTEST[®]

2019年度（2020年3月期） 第1四半期決算説明会

2019年7月24日
株式会社アドバンテスト

All Rights Reserved - ADVANTEST CORPORATION

ご注意

会計基準について

- 本プレゼンテーション資料に記載されている実績や見通し数値は、国際会計基準（IFRS）に基づいて作成しています。

将来の見通しに関する記述について

- 本プレゼンテーション資料およびアドバンテスト代表者が口頭にて提供する情報には、当社の現時点における期待、見積りおよび予測に基づく記述が含まれていません。
- これらの将来の事象に係る記述は、当社における実際の財務状況や活動状況が、当該将来の事象に係る記述によって明示されているもの又は暗示されているものと重要な差異を生じるかもしれないという既知および未知のリスク、不確実性その他の要因が内包されています。

本資料の利用について

- 本プレゼンテーション資料に記載されている情報は、各国の著作権法、特許法、商標法、意匠法等の知的財産権法その他の法律及び各種条約で保護されています。事前に当社の文書による承諾を得ない限り、法律によって明示的に認められる範囲を超えて、これらの情報を使用（改変、複製、転用等）することを禁止します。



```
...mirror_object = ...  
operation == "MIRROR_X":  
    mirror_mod.use_x = True  
    mirror_mod.use_y = False  
    mirror_mod.use_z = False  
operation == "MIRROR_Y":  
    mirror_mod.use_x = False  
    mirror_mod.use_y = True  
    mirror_mod.use_z = False  
operation == "MIRROR_Z":  
    mirror_mod.use_x = False  
    mirror_mod.use_y = False  
    mirror_mod.use_z = True  
  
@selection at the end -add  
obj.select= 1  
mirror_ob.select=1  
context.scene.objects.active  
obj["Selected"] + str(modifier)  
mirror_ob.select=1
```

2019年度第1四半期決算報告

取締役 兼 常務執行役員 藤田 敦司

All Rights Reserved - ADVANTEST CORPORATION

ADVANTEST[®]

四半期業績推移

(億円)

	FY18				FY19				
	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	前期比		前年同期比	
						増減額	増減率	増減額	増減率
受注高	706	762	627	657	659	+2	+0.3%	▲47	▲6.7%
売上高	709	727	749	640	662	+22	+3.4%	▲48	▲6.7%
売上総利益	382	389	425	344	394	+49	+14.4%	+12	+3.0%
売上総利益率	53.9%	53.6%	56.8%	53.8%	59.5%	+5.7pts		+5.6pts	
営業利益	158	180	207	102	152	+50	+48.7%	▲7	▲4.2%
営業利益率	22.3%	24.7%	27.6%	15.9%	22.9%	+7.0pts		+0.6pts	
税引前四半期利益	165	186	206	105	149	+45	+42.4%	▲16	▲9.6%
四半期利益	139	162	179	90	121	+31	+35.1%	▲18	▲13.0%
四半期利益率	19.6%	22.4%	23.9%	14.0%	18.3%	+4.3pts		▲1.3pts	
IFRS第15号適用に伴う 期首受注残の調整	▲30								
Astronics社SLT事業譲受に伴う 受注残の増加				+24					
受注残	795	830	708	749	746	▲3	▲0.4%	▲49	▲6.1%
為替レート	1米ドル	108円	111円	113円	111円	-		3円 円安	
	1ユーロ	131円	129円	130円	126円	125円	1円 円高	6円 円高	

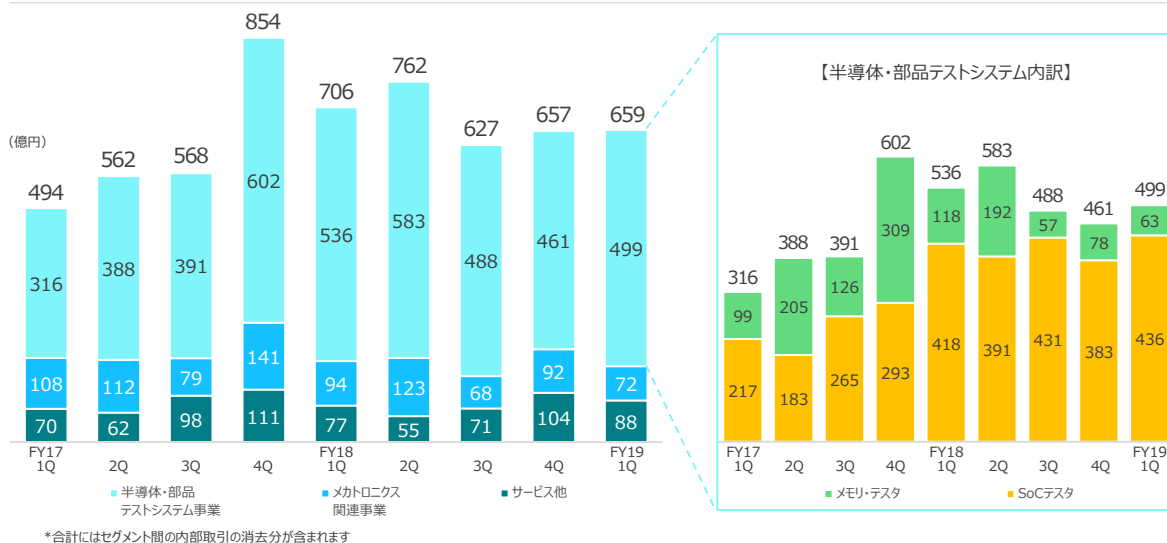
4 | ADVANTEST

All Rights Reserved - ADVANTEST CORPORATION

○ 2019年度第1四半期の業績概要

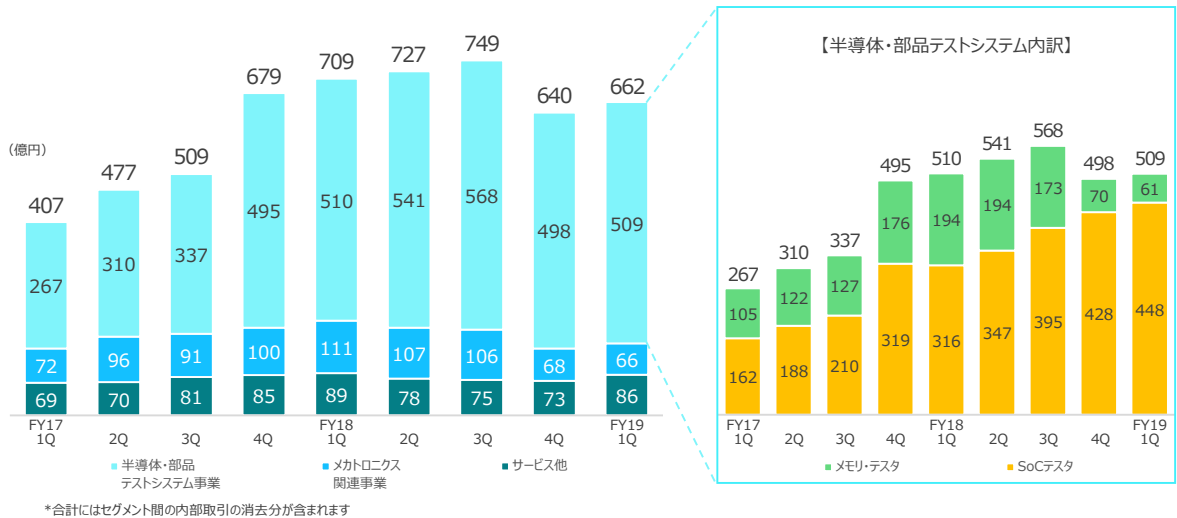
- 3か月前は、受注、売上、利益とも、減少傾向に向かうと予想していました。
- しかしながら、1QはSoCテスト需要が順調に推移したことで、受注、売上、利益とも、前期を超える数字を収めることができました。
- 対前年同期では、1年前に非常に活況だったメモリ市場が一転して低調な状態となっていることで、売上総利益以外どれも減少、という結果となりました。
- 受注残は746億円となりました。半導体市場、また世界経済の先行きに不透明感がある中でも、年度予想の達成に向けてポジティブなスタートとなりました。
- この1Qは、為替環境に大きな変動はありませんでした。

四半期受注高 事業セグメント別



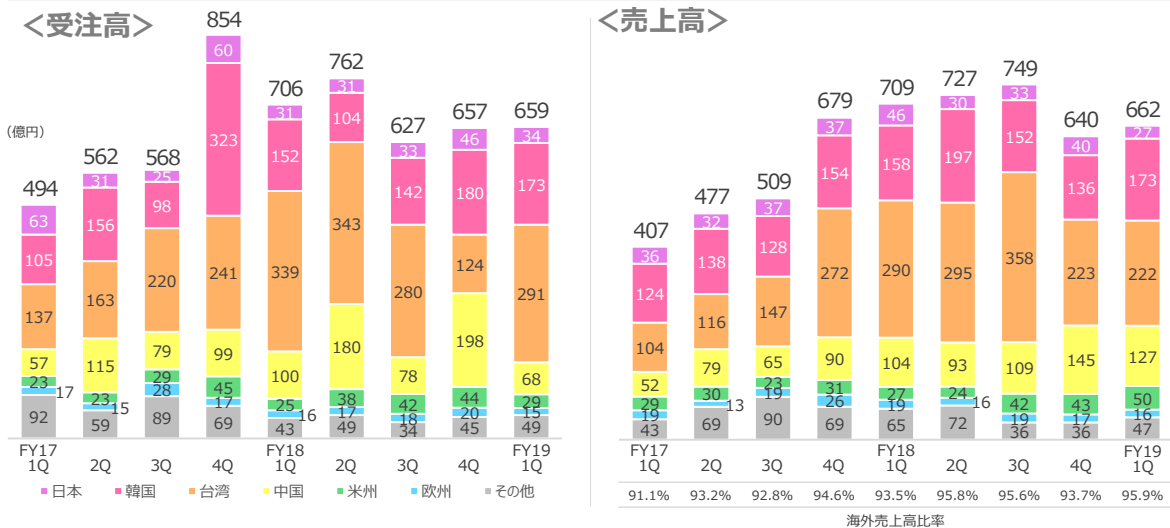
- 2019年度第1四半期の事業別受注高
- 半導体・部品テストシステム事業
 - ・ 前期比 8.3%増 499億円
 - ・ アプリケーション・プロセッサなど、スマートフォンに使われる半導体向けのテスト受注が伸び、SoCテスト受注は436億円、過去最高の四半期受注高となりました。
 - ・ 記録更新の原動力のひとつが、5G向けのテスト需要の伸びです。もともと上期に5G向けで動きがあると予想していましたが、半導体メーカー複数社で5G用デバイスの開発あるいは量産準備が加速されました。
 - ・ メモリ・テストは63億円でした。
- メカトロニクス関連事業
 - ・ 前期比 22.1%減 72億円
 - ・ メモリ関連投資の伸び悩みと、前期はEUV関連で伸びたナノテクノロジー製品の受注が減少しました。
- サービス他
 - ・ 前期比 15.1%減 88億円
 - ・ 前期は年間保守契約の進捗が良好でした。その反動です。

四半期売上高 事業セグメント別



- 2019年度第1四半期の事業別売上高
- 半導体・部品テストシステム事業
 - ・ 前期比 2.1%増 509億円
 - ・ 受注同様スマートフォン関連のテスト需要が伸び、SoCテストは四半期売上においても過去最高の448億円となりました。
 - ・ メモリ・テストは61億円でした。
- メカトロニクス関連事業
 - ・ 前期並み 66億円
- サービス他
 - ・ 前期比 18.5%増 86億円
 - ・ 2月に譲り受けたAstronics社のシステムレベル・テスト（SLT）事業を3ヶ月間、フルに連結したことで、前期比増収となっています。

四半期受注高/売上高 地域(出荷先)別



○ 2019年度第1四半期の地域別受注高

- 台湾

4Gと5Gスマホ向けで、先端プロセスを使ったSoC用のテスト需要が大きく伸び、結果、台湾向け受注は全体として伸びました。ただ、台湾のディスプレイ関係顧客の様子見ムードが強まり、ディスプレイ・ドライバIC向けの受注は前期比減少しました。
- 中国

前期は中国ローカルの半導体サプライチェーンの立ち上げといったイベントがありましたが、1Qはそれほど大きな規模になりませんでした。

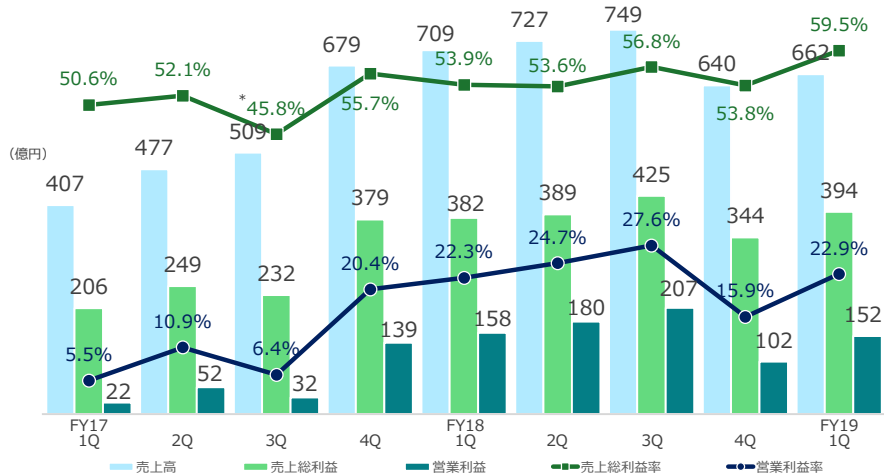
○ 2019年度第1四半期の地域別売上高

- 韓国

韓国ではメモリ向けのテスト需要は低調な一方、ここ数四半期は、スマートフォン関連のSoCテストのビジネスが活況です。

1Qは先端プロセスを使うハイエンドSoCのほか、イメージセンサー、パワーマネジメントICなど、スマートフォン関連のテスト売上が堅調でした。

売上高/売上総利益/営業利益



*FY17 3Qにナノテクノロジー事業の棚卸資産評価損(33億円)を計上しています。
この評価損影響を除いたFY17 3Qの売上総利益率は、52.3%となります。

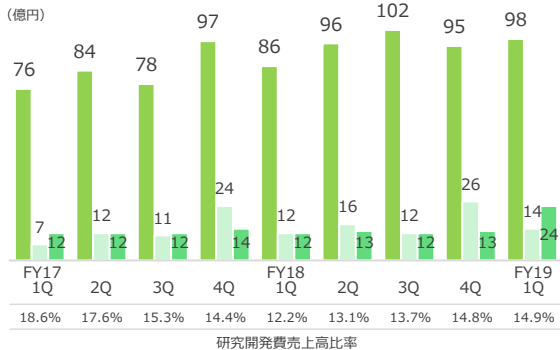
○ 2019年度第1四半期の営業利益

- 売上総利益率 59.5%
 プロダクトミックスの好転により、60%近い水準まで伸長しました。
 先端プロセスを使ったハイエンド品向けの売上比率が高まったものです。
- 販管費 242億円
 前期同額となりました。
- 営業利益 152億円
- 営業利益率 前期比 7.0ポイント改善 22.9%

投資等/キャッシュ・フロー

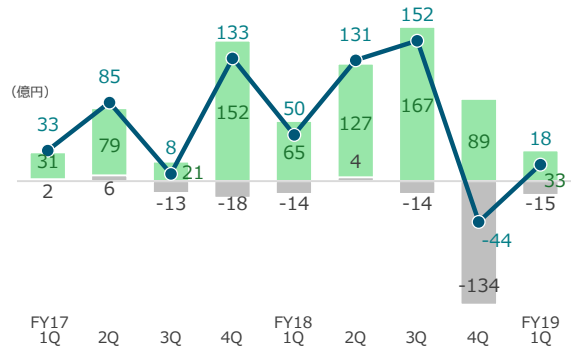
<投資等>

- 研究開発費
- 設備投資
- 減価償却費



<キャッシュ・フロー>

- 営業キャッシュ・フロー
- 投資キャッシュ・フロー
- フリー・キャッシュ・フロー



*フリー・キャッシュ・フロー = 営業キャッシュ・フロー + 投資キャッシュ・フロー

○ 2019年度第1四半期の研究開発費等

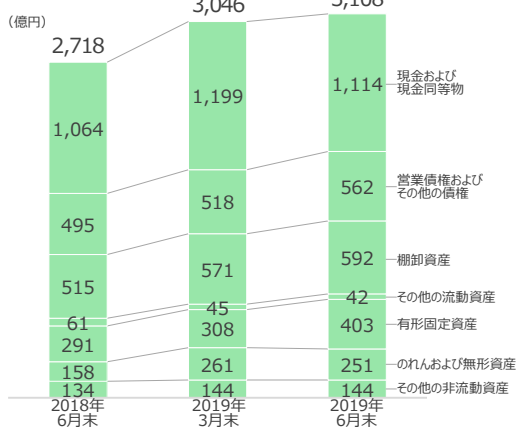
- ・ 研究開発費 98億円 前期並み
- ・ 減価償却費 24億円 11億円増
IFRSの新しいリース会計基準を1Qから適用しました。また2月に Astronics社から譲り受けたシステムレベル・テスト事業の買収対価における無形固定資産の償却費をやはり1Qから計上開始しました。これらにより増加しました。

○ キャッシュ・フローの状況

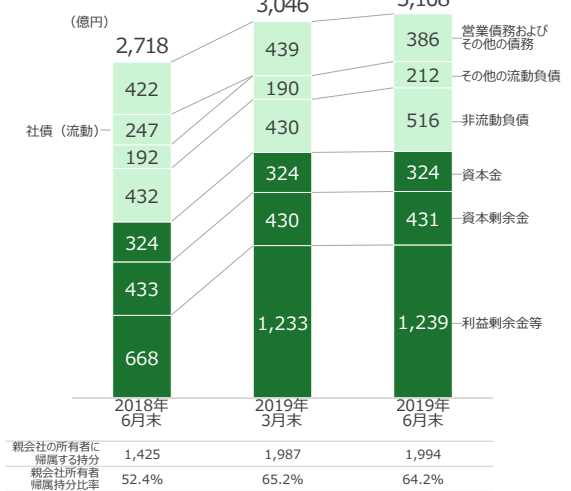
- ・ 1Qは決算資金の支出があり、フリー・キャッシュ・フローは18億円の収入にとどまりました。

連結財政状態

<資産の部>



<負債・資本の部>



○ 2019年6月末時点のバランス・シート

- 総資産 3,108億円
- 現金および現金同等物 前年度末比86億円減 1,114億円
- 有形固定資産 前年度末比95億円増 403億円
IFRSのリース新基準適用に伴い、使用权資産99億円を有形固定資産に含めています。
- のれんおよび無形資産 251億円
2月に譲り受けたAstronics社のSLT事業の取得原価配分作業はまだ完了せず、9月末となる見通しです。
- 親会社の所有者に帰属する持分 1,994億円
- 親会社所有者帰属持分比率 前年度末比1.0ポイント減 64.2%



2019年度事業見通し

代表取締役 兼 執行役員社長 吉田 芳明

All Rights Reserved - ADVANTEST CORPORATION

ADVANTEST[®]

FY19業績予想（4月25日発表から変更なし）

	FY18 実績	予想	FY19 前年度比	
			増減額	増減率
			(億円)	
受注高	2,752	2,300	▲452	▲16.4%
売上高	2,825	2,300	▲525	▲18.6%
営業利益	647	300	▲347	▲53.6%
営業利益率	22.9%	13.0%	▲9.9pts	
税引前利益	662	310	▲352	▲53.2%
当期利益	570	260	▲310	▲54.4%
当期利益率	20.2%	11.3%	▲8.9pts	
受注残	749	749	-	-
為替レート*1	1米ドル	110円	110円	-
	1ユーロ	129円	130円	1円 円安
ROE	35.3%	12.6%	▲22.7pts	
1株当たり配当金（年間）*2	92円	未定	-	

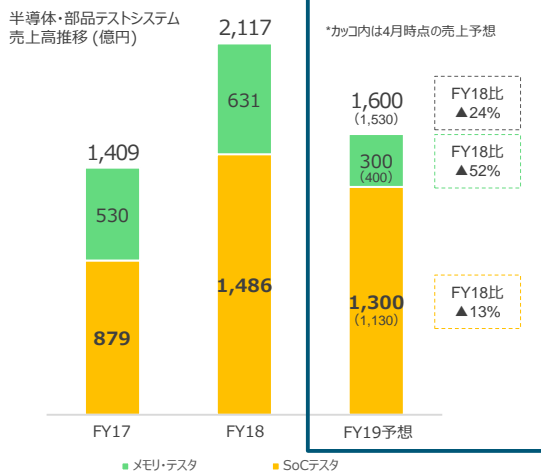
*1: 為替レート変動が当社のFY19営業利益に与える影響の最新見直しは、対米ドルが1円安時プラス5億円です。対ユーロはマイナス1億円です。

*2: 現時点ではFY19の配当については未定です。今後の業績等を勘案し、可能となった時点で速やかに開示いたします。配当は半期の連結業績をベースとした利益配分を行うこととしており、半期の連結配当性向30%を指標としております。

○ 2019年度の業績予想

- 米中貿易摩擦に端を発した世界経済の不透明感、最終製品需要や半導体需要の減速感から、FY19の当社業績はFY18に比べ落ちる見通しであると、4月にお伝えしました。
- 市場環境の悪化はメモリ・テストを中心に、実際厳しいものがあります。
- 一方で、テストする半導体の物量が伸びなくても、半導体が高性能化することでもテストの需要は伸びます。1Qは、この要素が改めて顕在化した四半期でした。
- スマートフォンに搭載されるSoC半導体の高性能化が進み、SoCテスト需要が堅調となったおかげで、1Q実績は当初の予想を超えて進捗しました。
- では2Q以降も良好な展望か、というと、先行き不透明な環境は継続中です。1Qの好調分を通期予想にそのまま反映するのは、まだリスクがある状況です。
- そのため、4月に発表した通期予想については、今回は据え置きます。2Q、3Qの受注動向を確認した上で、改めて業績予想を精査したいと考えています。
- なお前回説明した20年以降のシェア維持・拡大のためのSEなどの人員増強、開発投資、設備投資は、期初計画どおり実施する予定です。

FY19見通し（事業別）



半導体・部品テストシステム事業

<SoCテスト>

- 半導体高性能化の進展がSoCテスト需要水準を下支え。年度売上予想を引き上げる
- アプリケーション・プロセッサやイメージセンサなど、スマートフォン端末高性能化を支える半導体へのテスト能力増強トレンドが継続
- 5G関連需要は1Qに到来。CY20以降さらに本格化という従来の見方も不変

※参考：テスト市場予測

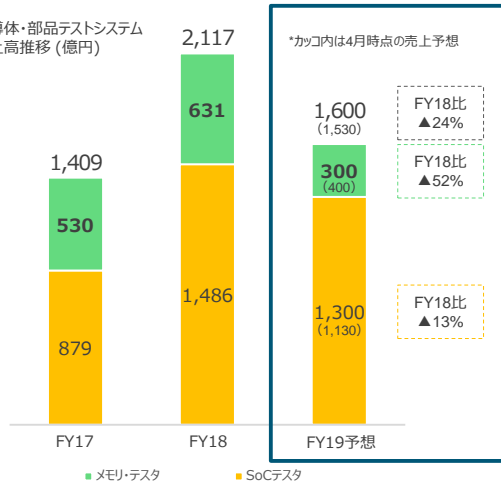
	4月時点の推定	7月時点の見方
CY19 SoCテスト市場規模	約\$2,000M	市場規模、当社シェアともに想定以上の可能性

○ SoCテスト事業の今期見通し

- FY19も、半導体高性能化の進展がSoCテスト需要の水準を下支えする、という大きな流れに変化はありません。
- 今期も売上の軸となるのは、アプリケーション・プロセッサなど、スマートフォン端末高性能化を支える半導体向けのテストです。
- もっとも、最終製品需要は決して順調とは言えず、ディスプレイ・ドライバIC向けは期初計画よりも減少する可能性があります。
- しかし、先端プロセス向けのテスト需要がそれ以上に伸びていることから、SoCテスト事業の今期売上見通しを170億増額し、1,300億円とします。
- また、5G関連のテストビジネスは昨年から少しずつ始まっていたのですが、この1Qは、想定以上の規模の受注を複数の大手半導体メーカーからいただきました。
- これは、CY20以降の5G関連需要拡大のさきがけとなるものであり、今後の5G商用サービスの拡大、5G用半導体の量産開始に期待したいと思います。

FY19見通し（事業別）

半導体・部品テストシステム
売上高推移（億円）



半導体・部品テストシステム事業

<メモリ・テスト>

- メモリ在庫調整の影響下、メモリ・テスト需要の低調が想定より長期化。年度売上予想を引き下げる
- テスト需要はFY19 4Qの回復を期待
- DRAMでは、DDR5シフト、HPC向け高速品需要の拡大など、メモリ市況に左右されにくい明確な技術ドライバーが存在。当面のテスト需要をサポート

※参考：テスト市場予測

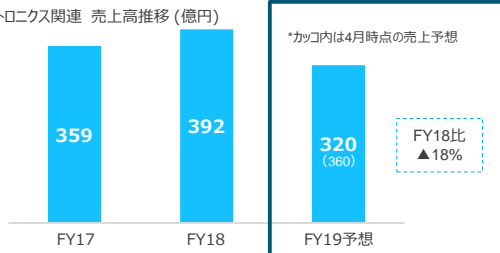
	4月時点の推定	7月時点の見方
CY19 メモリ・テスト市場規模	約\$550-650M	下限値を下回る 公算

○ メモリ・テスト事業の今期見通し

- メモリ在庫調整の影響下、メモリ・テストの受注が落ち込んでいます。
- 需要の低調が事前の予想よりも長期間になりそうなことから、メモリ・テストについては年度の売上見通しを引き下げます。
- 当初400億円で予想しておりましたが、100億円下方修正し、300億円とします。
- もともと下期の回復を見込んでおり、それは変わっていませんが、現状ではテストの需要回復はFY19の4Q、つまり暦年2020年の1-3月期を期待しています。
- ただDRAMには、DDR5シフトやHPC向け高速品需要の拡大など、メモリ市況に左右されにくい明確な技術ドライバーが存在します。DRAM高速テストがテスト受注水準を下支えする局面が当面続くのでは、と思います。

FY19見通し（事業別）

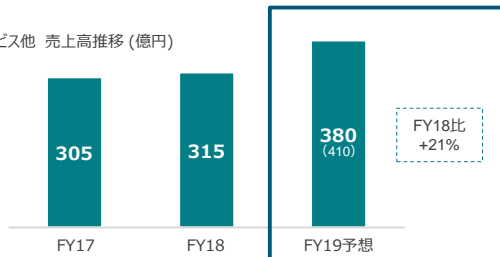
メカトロニクス関連 売上高推移（億円）



メカトロニクス関連事業

- メモリ顧客のテスト投資回復遅れに伴い、インタフェース製品中心にセグメント予想を引き下げ
- EUV関連需要の取り込みによりナノテク製品は増収見通し

サービス他 売上高推移（億円）



サービス他事業

- 顧客内のテスト稼働は一定維持されており、中核事業であるフィールド・サービス売上の底堅い推移を見込む
- SSD向けは低調だが、SoCのシステムレベル・テスト事業を強化中

○ メカトロニクス関連、サービス他事業の今期見通し

- メモリ顧客のテスト投資減速長期化に伴い、メカトロニクス関連事業の予想も、40億円引き下げ、320億円とします。
- サービス他事業については、フィールド・サービスで底堅い売上を見込んでいます。ただ残念ながらデータセンター投資の回復が鈍いことから、当社が手掛けているSSDのシステムレベル・テスト製品の売上予想を見直し、このセグメントの売上予想は380億円と、30億円減額します。
- しかしながら、2月に買収したAstronics社のシステムレベル・テスト事業をこの部門に組み入れていますので、この部門は前年度比増収を予想しています。
- Astronics社のシステムレベル・テスト製品はSoC向けをターゲットとして事業強化をはかっています。こちらは通信系や車載系で、グローバルリーダー企業も含めて多くの企業から引き合いを頂いており、今後が楽しみな展開となっています。

サマリー

- 米中貿易摩擦、地政学リスク、半導体サプライチェーンの変動などにより、半導体市場/半導体製造装置市場は不透明感が増している
- SoCテスト投資増にサポートされ、FY19 1Qは当初の予想を超える業績進捗
- 下期の回復に期待はあるも、2Q・3Q受注の確認が必要
- テスタ市場は踊り場にあるが、先端テクノロジー関連需要の取り込みと市場シェア向上により中期経営計画の目標達成に努める

○ サマリー

- 保護主義的な政策の拡大もあり、半導体市場/半導体製造装置市場は不透明感が一層増している状態です。
- この1Qは、メモリ市場の下押しはありましたが、SoCテストの投資増にサポートされ、当初の想定を超える業績進捗となりました。
- 5G半導体の量産に向けた動きが業界として加速したことは、中長期的なテスタ市場の動向の面でも、ポジティブな四半期となりました。
- 業界の下期回復に期待はありますが、2Q、3Qの受注動向の確認が必要なことから、今回は業績予想据え置きとさせていただきます。
- テスタ市場は踊り場を迎えていますが、最先端デバイスの開発は顧客各社で幅広く進んでおり、テクノロジーの進化も進んでいます。
- 当社としては、市場シェアの向上を通じて、中長期経営方針「グランドデザイン」で掲げた目標の達成に努めていきます。